

4

302

2005年4月号

THE SERVICE CLUB OF THE Y.M.C.A
AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUB

京都ウエストワイズメンズクラブ

BAMBOO

強い義務感を持とう！義務は全ての権利に伴う！

クラブ会長標語 プロジェクトW パート2

うきうき！ わくわく もっとワイズを楽しもう！

会長 立山隆一 副会長 中原一晃 書記 中村豊 山下太郎 会計 野々口佳孝

標語

国際会長 “Let Your Light Shine” 「輝かせ あなたの光を」
 アジア会長 “Love Your Neighbors as Yourself” 「自分を愛するように隣人を愛せよ」
 西日本区理事 “皆な仲間” 働こう！ “Be Soul Mates” - To Work Hand in Hand -
 京都部部长 “子供達に渡すべき未来” - 今 ワイズが出来ること -

強調月間

Y S A S F

知識は人を高ぶらせるが、愛はつくりあげる。自分は何か知っていると思う人がいたら、その人は、知らねばならぬことをまだ知らないのです。

コリントの信徒への手紙1 8章1-2

スペシャルオリンピックスに参加して

メネット 野田 君子



2月26日から3月5日まで長野市でスペシャルオリンピックス(SO)世界大会が行われました。

我が息子、和弘もスピードスケートで出場しました。こんなチャンスはめったにないと、家族みんなで応援にきました。いつも和弘を温かく受け入れて下さっているウエストの皆様を代表して、森田ご夫妻、胡内ご夫妻、そして忙しい子育て真っ最中の家をほっぽり出して来ていただいた、立山メネット、中原メネット本当にありがとうございました。

実は、今回の大会には本当に色々な想いが私の中でありまして、一言で言い表しますと「感謝」の言葉しか見当たりません。

和弘が生まれた時、すぐに医師から「障害を持っています。一年ももちません」と宣告されました。レントゲンのフィルムには、白く大きく写った心臓がありました。

私達は、覚悟を決めていました。ところがどっこい、本人は頑張りました。入院をして、もう駄目かな・・・と思った時もありましたが何とか乗り切り、小学校1年で心臓の手術をしました。そんなこともあって、今回の世界大会は本当に

感慨深いものがありました。

長野市街は世界大会らしくSO一色で盛り上がり、駅のコンコース、町中、ホテルのいたるところにポスターやのぼりが目に付き、外国選手やファミリーがあちこちで見受けられました。本人は22日から、選手団として長野に入っていましたので、12日間も家を離れていたわけですが、SOの選手になると大会中は、子供と会うには申請をしないと会えません。それもよほどの時に限ります。親と子の自立を目的としています。そんなので私達は、遠くから和弘を見ていました。私達がいなくても外国の選手に混じって両手でスケート靴を持ちヘルメットを抱えて選手入り口から一人で出てくる姿、スケート靴を脱ぎ、そして刃を拭く姿は、一回り成長したようにも見えました。

今年9月で20歳になります。今回の世界大会も含めいろいろの方々にお世話になり、ここまで大きくなりました。今まで関わっていただいた方に感謝します。そしていつも自然体で接して下さっていますワイズの皆様、特にウエストの皆様、今後ともよろしくお願いします！！スピードスケート結果111・5位 222・銀メダル 333・失格、この失格は競り合って抜いた時に他の選手と接触し相手がこけたからです。(朝日新聞の全国版に記事とともに私の歳が掲載された。こんなんじゃ36歳にしといたらよかった～)

3月在籍者

会 員	月 例 会	81.5%	切手	0.Pt	第一例会	ネットファンド
27名	メン 22名	(メイキャップ純)	現金	0.Pt	0円	0円
広義・功労会員	ネット 8名				第二例会	
2名	ネット 1名				20,000円	
	ビジター 0名	前月出席率	累計			ファンド
合 計	ゲスト 8名	修正	切手	0.Pt	累計	年間合計
29名	計 39名	なし	現金	0.Pt	137,212円	0円

